

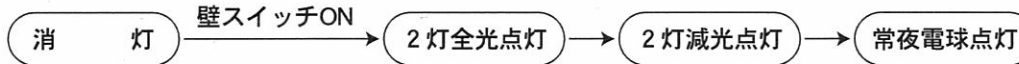
## 点灯順序

リモコン送信機の操作ボタンを押すことにより、次のように点灯状態が切り替わります。



### 壁スイッチコントロール機能 (ワンタッチスイッチ機能) について

壁スイッチ(既存の壁スイッチ)のON・OFFでも点灯状態を切り替えることができます。



- ※壁スイッチをOFFにするとの点灯状態でも消灯します。
- ※消灯後0.5～3秒以内にスイッチをONにすると次の状態に変わります。

## 定 格

形 式	定格電圧	定格周波数	定格消費電力	使用蛍光灯	使用常夜電球	始動方法
20形 + 27形 (スチールシェード/木製シェード蛍光灯シーリングライト・リモコン付)	AC100V	50Hz 60Hz	58W	FHC20 (高出力点灯28W) FHC27 (高出力点灯38W)	E12なつめ球 (5W)	インバータ式

## 使用上のご注意

この器具は、FHC20、FHC27専用器具です。従来のFCL30、FCL32は使用できません。

- 本器具に添付のリモコン送信機は、当商品専用です。リモコン式テレビなどには使用できません。また、テレビやビデオのリモコン送信機では、照明器具は作動しません。
- 本器具をご使用中あるいはリモコン送信機で消灯させた状態で停電した場合、停電から復帰したときは全灯状態となります。長期間のお出かけの際には、壁スイッチで電源を切ってください。
- 器具の近くでラジオや赤外線リモコン方式の電気機器を使用されますと、雑音が入ったり、リモコンを操作しても作動しない場合があります。
- ランプ交換の際には、必ず指定の蛍光灯をご使用ください。
- 冬場など、周辺温度が低いとき、明るくなるのに時間がかかったり、点灯直後にちらつきが発生することがあります。
- 点灯中や消灯直後、シェード等のプラスチックの伸縮により、「ピシ・ピシ」、「ポツ・ポツ」という摩擦音が生じることがあります。
- ランプが点灯するとき、ランプ管端部が赤く光ることがあります。
- リモコン送信機は器具に向けて操作してください。リモコン送信機の周囲にしゃへい物がある場合、器具が作動しませんので、しゃへい物を取除いて再度ボタンを押してください。
- この器具はリモコンスイッチで消灯してもリモコン部の回路が約0.8Wの電力を消費しておりますので、節電のために長期外出時には壁スイッチを切ってください。
- 壁スイッチ、送信機のボタン及び電源のON/OFFを続けてくり返し操作しないでください。故障の原因になります。

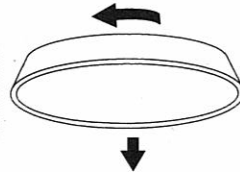
## 器具のはずしかた

必ず電源を切って本体やランプが冷えてから行ってください。

### ■カバーの外しかた

カバーを左に回してください。

カバーは無理にはずさないでください。カバーの割れ、落下によるけがの原因となります。



### ■ランプの取り付け、取り外し

消灯直後は高温になっていますのでご注意ください。

ランプソケットの表示に従ってランプを取り付けてください。ランプの口金は、多少動くようになっておりますが無理に回さないでください。ランプ交換の際は、ランプホルダーで強く弾かないでください。

### ■電源の外しかた

右図のようにコネクタの矢印部分を押しながらコネクタを引き抜いてください。



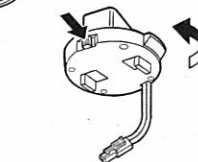
### ■本体の外しかた

本体中央部のレバーを矢印方向へ引いてください。



### ■アダプタの外しかた

アダプタの赤いボタンを押しながら矢印方向に回してください。



**注意** ※ボタンを押さずに回すと引掛シーリングが破損します。

## スリム形蛍光灯ランプの特徴

器具に添付していますスリム形蛍光灯ランプ(FHC=高周波点灯専用環形蛍光灯)は、次のような特徴があります。

- FHCは、ガラス管径16mmスリムで、省資源・省スペースおよび、器具の薄型化を可能にした、長寿命な蛍光灯ランプです。
- このランプは、発光効率を向上させるために、片側の電極(ランプマークが表示されていない側)に通常より背の高い特殊な電極を採用しています。このためランプマークが表示されている側より、ランプ点灯時の影で若干暗くなっています。
- ランプ点灯初期に、明るくなるまで少し時間がかかる場合がありますが、異常ではありません。約10分程度で明るくなります。

## 無印良品

- お買い上げありがとうございました。
- 商品を取り出す前に必ずお読みください。
- お読みになったあと、必ず保管しておいてください。

## スチールシェード/木製シェード蛍光灯シーリングライト・リモコン付

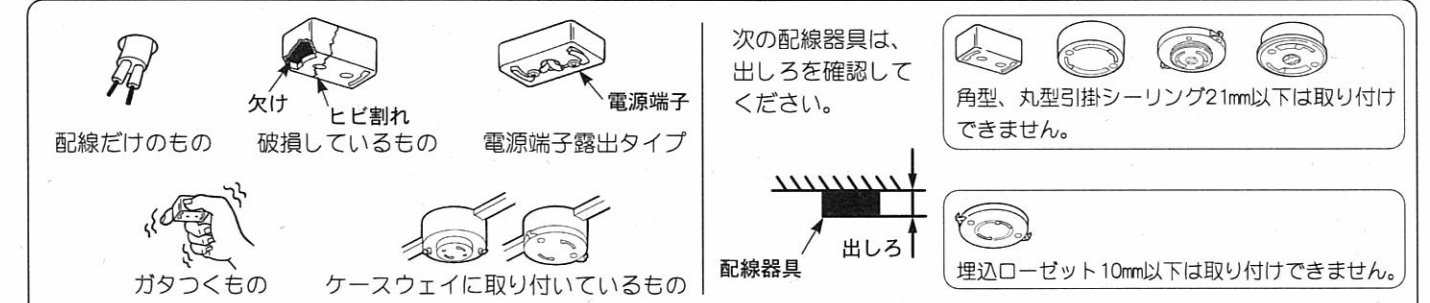
保存用 取扱説明書

## 取り付けできない天井

火災・感電・落下によるけがの原因となります。



下図の場合は、電気工事が販売店にご相談ください。



電気工事は電気工事士の資格が必要です。工事は必ず電気工事店に依頼してください。

引掛シーリングはベニヤ板などの薄い天井材には取り付けないでください。器具が落下する恐れがあります。

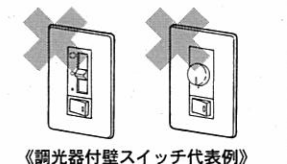
## 取付上のご注意

壁付調光器のある回路では使用しないでください。



注意

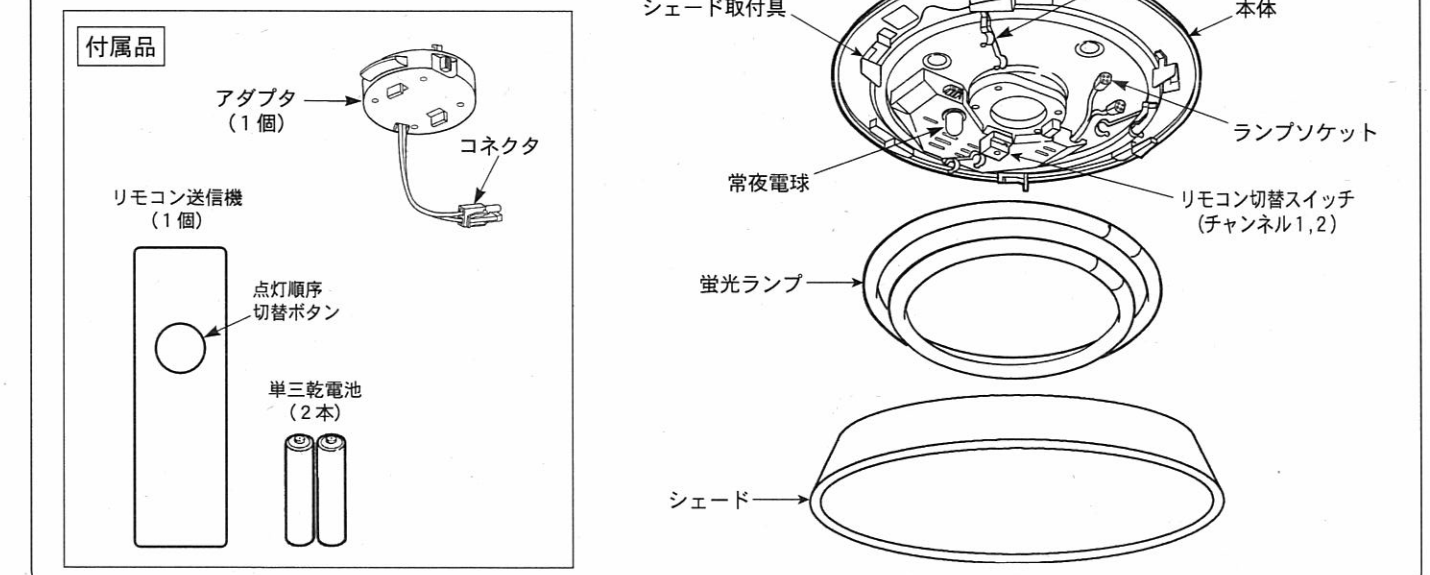
本器具を取り付ける電源回路(壁スイッチ等)に調光器が接続されている場合、ランプが正常に点灯しなかったり、器具が故障することがあり使用できません。右図のような調光器が接続されている場合は必ず調光器を取り除いてください。(調光器の交換工事は電気工事店に依頼してください。)



《調光器付壁スイッチ代表例》

## 各部の名称

この図は一部省略抽象化した共通部品図です。機種によってシェード形状が異なる機種もあります



※この紙は再生紙を使用しています

# 器具の取付方法

器具の取り付けを行う際は、感電等の事故防止の為、必ず電源を切って行って下さい。

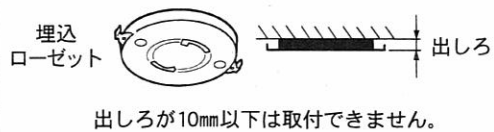
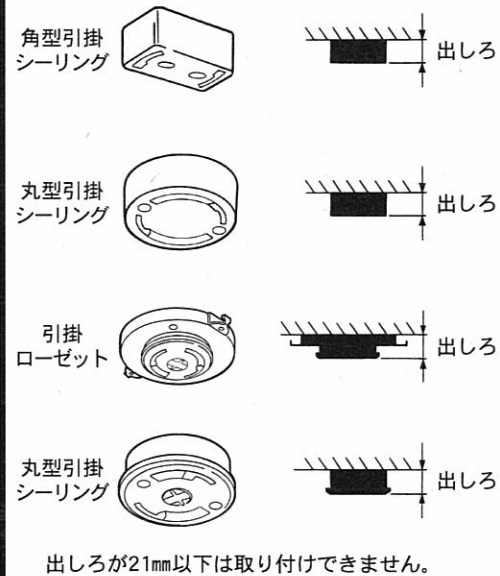
## 1. 天井の引掛シーリングを確認する

### 取り付け可能な引掛シーリング

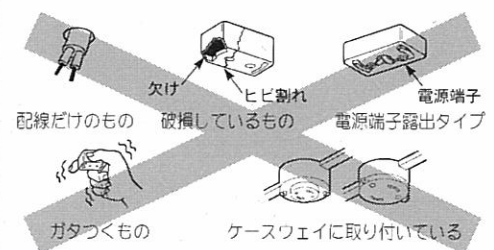
・下図の引掛シーリングであれば取り付け可能です。  
(ガタつきや破損がないことを確認して下さい。)

#### 重要ポイント

引掛シーリングの形状によって  
取付方法が異なります。



### 取り付けできない引掛シーリング



取り付ける際は、必ず上図の取り付け可能な引掛シーリングに交換して下さい。  
交換には電気工事士の資格が必要です。  
交換工事は必ず電気工事店に依頼して下さい。  
(引掛シーリングはベニヤ板などの薄い天井には取り付けられないで下さい。器具が落下する恐れがあります。)

## 2. アダプタを取り付ける

アダプタの引掛金具を引掛シーリングに挿入し矢印方向にカチッと音がするまでまわして下さい。



#### 重要ポイント

取り付け後、赤いボタンを押さずに左に回して、はずれないことを確認して下さい。

#### 警告

落下のおそれあり  
取り付けが不完全な場合、落下によるけがの原因となります。

## 2. アダプタを取り付ける

アダプタの引掛金具を引掛シーリングに挿入し矢印方向にカチッと音がするまでまわして下さい。



#### 重要ポイント

取り付け後、赤いボタンを押さずに左に回して、はずれないことを確認して下さい。

#### 警告

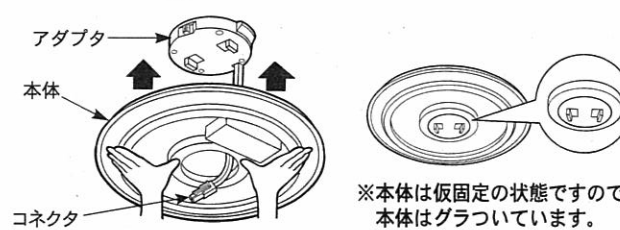
落下のおそれあり  
取り付けが不完全な場合、落下によるけがの原因となります。

## 3. 本体を取り付ける

①ランプがランプソケットに確実に差し込まれていることを確認して下さい。  
不十分な場合、ランプが点灯しない場合がありますので確実に差し込んでください。



② 1段押し上げ (仮固定)  
コネクタを本体中央の丸穴より通り、アダプタに丸穴を合わせ、本体中央部を天井に押し上げる。

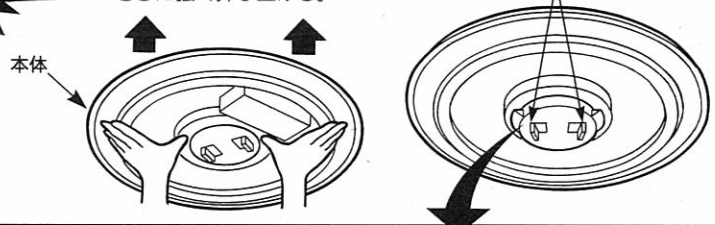


#### 警告

まだ本体の取り付けは不完全です。  
この状態のまま使用すると、落下によるけがの原因となります。

#### 重要ポイント

③ 2段押し上げ (取付完了)  
さらに強く押し上げる。



#### 要チェック

- ① 本体中央部のアダプタの赤マーク(2ヶ所)が完全に見え、アダプタのツメ(2ヶ所)が完全に出ていることを確認する。
- ② 本体のグラつきがないことを確認する。

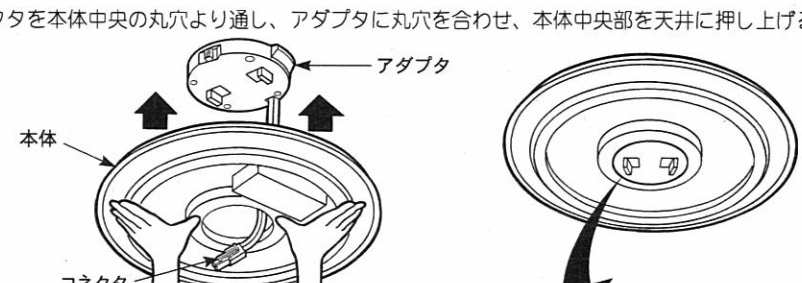
これで本体の取り付けは完了です。

## 3. 本体を取り付ける

①ランプがランプソケットに確実に差し込まれていることを確認して下さい。  
不十分な場合、ランプが点灯しない場合がありますので確実に差し込んでください。



② 1段押し上げ (取付完了)  
コネクタを本体中央の丸穴より通り、アダプタに丸穴を合わせ、本体中央部を天井に押し上げる。



#### 要チェック

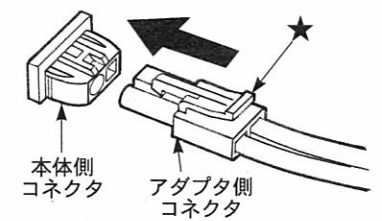
- ① 本体中央部のアダプタの赤マーク(2ヶ所)が完全に見えることを確認する。
- ② 本体のグラつきがないことを確認する。

これで本体の取り付けは完了です。

## 4. 電源を接続する

アダプタ側コネクタを本体側コネクタに確実に差し込んでください。

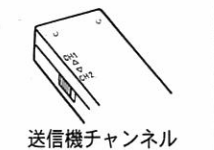
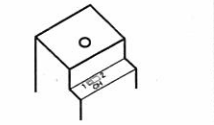
★の部分を押さえずに、アダプタ側コネクタを引っ張り抜けないことを確認して下さい。



## 5. チャンネルを設定する

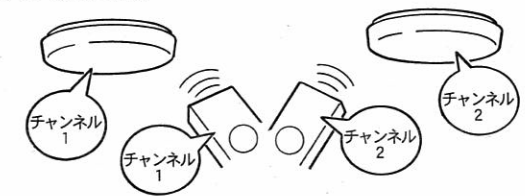
■ 1台のみ操作する場合

器具本体側のチャンネルとリモコン送信機チャンネルを同じチャンネルに合わせてください。  
(出荷時のチャンネルは、器具本体側・リモコン送信機共、チャンネル1に設定しています。)



■ 2台の器具を別々に操作する場合

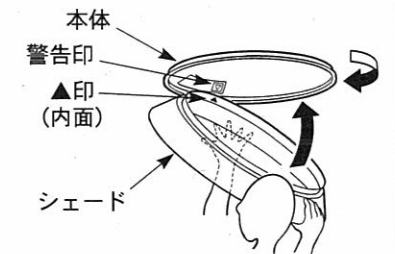
(1つのリモコン送信機で2台の器具を別々に操作することができます。)  
1台目の器具本体側チャンネルを「1」、もう1台の器具本体側のチャンネルを「2」に合わせてください。  
リモコン送信機のチャンネルを操作したい方の器具のチャンネルに合わせて、器具を操作してください。



## 6. シェードを取り付ける

#### 重要ポイント

本体の警告印(△)にシェード内側の▲印を合わせシェードを持ち上げパチンと音がするまでシェードを右にまわして下さい。



シェードは外側(スチール/木製)と内側(プラスチック)の二重構造になっています。  
取付けの際は、外側・内側の両方を両手で支えて、取付けを行ってください。

シェード取り付け時に本体が回転してしまう場合は、本体の取り付け(押し上げ)が不十分です。「3. 本体を取り付ける」に従って、本体の取り付け(押し上げ)を確認して下さい。

#### 警告

落下のおそれあり  
取り付けが不完全な場合、落下によるけがの原因となります。

## 7. リモコン送信機に乾電池を入れる

カバーを軽く押しながら手前に引いて外して下さい。  
乾電池の極性⊕⊖を間違えないように入れて、カバーを閉めてください。  
リモコン送信機の平均電池寿命は、1日10回使用した場合、約1年間です。電池交換の際は、必ず2本とも交換して下さい。(使用電池は単三形)

